

学校のひとコマ (1年生 応急簡易トイレ作成アクティビティ)

3月21日(木)1年生を対象に、応急簡易トイレの作成体験を行いました。

目的としては、「災害発生後、初めに直面する課題であるトイレについて、学校や家庭にあるトイレを応急簡易トイレにする体験を行い、発災時に、地域や社会に貢献できるスキルと自信を持つ。」を掲げ、既存洋式トイレを使用した応急簡易トイレの準備体験と学校備蓄用の吸水シートを準備しました。

自宅の安全が確保できるのであれば、自宅にとどまり、慣れた環境でトイレをすることができるという実体験をすることで、災害発生時の行動にも選択肢が広がり、少しでも不安が軽減できるのではないかと考えて実施しました。

当日は、大正製薬「排便のにおいに関する意識調査」(令和5年12月実施)から、「外出先で排便をしますか?」の質問に、59.3%の人が「我慢する・しない」という回答したという紹介や能登半島地震から1か月後の上下水道の復旧状況を示して、生徒に今回の体験の目的などを考えてもらい、実際の体験となりました。



事前に、防災係の生徒たちが、トイレ体験の準備をしてくれました。



トイレ体験用の品物
除菌シート、手袋、便器に被せるポリ袋、防臭袋(水色)、半分に切った吸水シート(ペットシート)



実際のトイレで体験します。手袋をして、触る部分を除菌シートで拭きます。



手順1 便座を上げ、便器に45Lポリ袋をかぶせます。匂い防止のため水は残します。



手順2 便座を下ろし、別のポリ袋を被せます。



手順3 中に、吸水シートを入れます。完成！



学校備蓄用の吸水シートを作ります。
吸水シートを半分に切ります。(吸水ポリマー注意)



600 回分の吸水シートができました！
吸水シートは、半分で 400ml 吸ってくれます。

【生徒アンケートから】

- とても簡単だし、わかりやすかった。消臭大切。
- ほんとに災害が起きた時に役に立つなって思った。忘れちゃいけないなって思った。
- トイレは生きていくのにとっても重要なものだと気付かされました。いつも当たり前にするせているものなので普通に過ごしていたら気付かなかったと思います。
- ふだん無縁なペットのトイレシートがこの様なところで役に立つんだと初めて知ることができた。
- 簡易トイレを作ることの大切さや、身近なものを利用し、活用することで災害時に役に立つものができることを学んだ。
- 日々の日常でも家と外でトイレについての抵抗などの違いがある上に、災害時には、水道が使えなくなる可能性が高いので、災害時のトイレの大変さがよく分かった。

【まとめ】

- 事後アンケートの回答数が 71 名と少ないのですが、90.2%の生徒が、「この体験を後輩にも勧める」肯定的にとらえてくれました。企画者としては、ホッとしています。
- パンフレットやテレビなどでの紹介を見ることがと実際のトイレでやってみることは、全く異なります。首都圏での災害はいつ起こるかわかりません。今回のトイレの体験は、停電の際や給排水管のトラブルなど様々な事態に対応ができる一つの方法です。私は、今回、応急簡易トイレ作成の体験をした生徒の皆さんが、ご家庭で保護者様に伝えて、ご家庭でも試しにやってくれることを願っています。
- なお、事後学習では、防災グッズに含まれないトイレトーパーの必要数も計算してもらいました。